

東北新幹線・最新型車両が 走行不能で5時間半不通に

東北新幹線で繰り返される事故

- 24年1月23日 東北新幹線上野～大宮間停電・感電事故
- 24年3月6日 東北新幹線郡山駅で停止位置を約500mオーバーラン
- 24年4月2日 東北新幹線福島駅構内で工事車両のエンジンオイルが漏れて故障
- 24年9月19日 東北新幹線で走行中の列車が分離
- 25年3月6日 東北新幹線で走行中の列車が再び分離
- 24～25年 パンタグラフの損傷が相次ぐ



6月17日、東北新幹線・宇都宮～那須塩原間で回送列車（E8系7両編成）が走行できなくなり、約5時間半、運行できなくなりました。新幹線計86本が運休、約5万4700人に影響の出る事態となりました。

今月10日に投入されたばかり

会社は事故原因について、「①補助電源装置が故障↓②主変換装置（台車のモーターを動かすための制御装置）に電力が供給されない↓③冷却装置が動作せず、回路保護機能が作動↓④モーターが動かず走行不能」と

推定されると発表しました。

当該の列車は6月10日に完成し、前日の16日に1度目のテスト走行を行ったばかり。事故当日が2度目のテスト走行でした。

新幹線で相次ぐ重大事故

「E8系」自身も24年春にデビューしたばかりの最新型です。さらに、同じ日に「E8系」の別の3編成でも、同様の装置の故障が相次いでいました。現在もE8系の単独運転は取りやめとなり、今も影響は続いています。

東北新幹線ではこの間、さまざまな事故が相次いでいます。新幹線は車両の製造や検査、インフラ整備など、「もっとも厳しい基準」で行われているはずでした。しかし、その新幹線で重大事故が相次いでいます。鉄道の安全、技術継承が根本のところでは崩壊しています。

「闘いなくして安全なし」

しかし、会社は、「現業と非現業の区別をなくす」「機能保全を含めた検修部門の全面外注化」など、技術継承と安全をさらに崩壊させるような攻撃を進めようとしています。労働者の権利を守るためにも、鉄道の安全を守るためにも、職場に必要なのは闘う労働組合です。乗務員手当・現業廃止、業務外注化、融合化攻撃に「反対」の声をあげよう。